

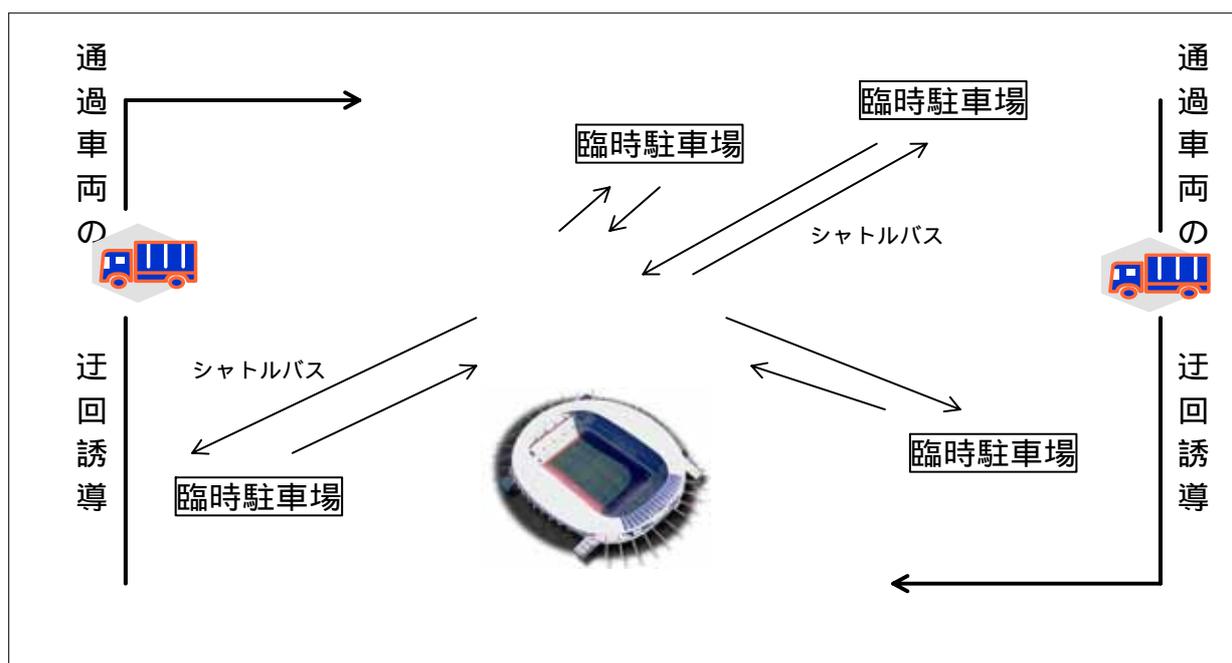
カシマサッカースタジアム周辺交通環境向上モデル事業(茨城県鹿嶋市)の概要 (実施期間:平成14年1月～平成15年3月)

背景

ワールドカップの会場となるカシマサッカースタジアムへのアクセスは、鉄道及びバスなどの定期交通路線の輸送力が不足しており観客は自家用車に頼っている。このため開催試合終了後の交通渋滞の発生が恒常的になっている。したがって、交通規制の導入によるスタジアム周辺での交通総量抑制措置をとるとともに、スタジアムを中心に方面別に大規模な臨時駐車場を設置し、臨時駐車場からスタジアムまではシャトルバスを運行することにより交通渋滞の緩和と環境負荷の低減効果を検証する。

申請者 2002年FIFAワールドカップ茨城県開催準備委員会 実験の概要(ワールドカップ開催時)

- ・スタジアム周辺における臨時駐車場整備
 - ・臨時駐車場への観客誘導及び通過車両の迂回誘導のため誘導看板などを設置
 - ・交通総量抑制策の周知のため横断幕等を設置
 - ・一般観客に対するアクセス案内パンフレットの配布
 - ・車両誘導のための警備員の配置
 - ・スタジアム周辺の民間駐車場の借り上げ
 - ・臨時駐車場とスタジアム間のシャトルバス運行
 - ・ワールドカップ終了後の大規模大会に向けた交通輸送体系指針の策定
- 関係行政機関等によるTDM実証実験への支援(関東運輸局、関東地方整備局、茨城県警察本部)



実験の成果

スタジアム周辺にW杯観戦客のマイカーは進入せず、リーグ開催時に見られた交通渋滞がなく円滑な交通輸送が実現され、大気環境や生活環境の改善に有効であった。

実験後の状況

今回の実験を通じて、スタジアムへの鉄道、高速バス等の公共交通の利用が根付いた。このため、現時点で実験時の施策の継続実施は行っていないが、大きな交通渋滞は見られていない。